

訪問介護ステーションあいわ 第31回 介護・医療連携推進会議議事録			
日時	2026年3月 13日 （金）		
場所	第 3 会議室		
司会	平岩科長	書記	畑岡
出席者	ケアプランセンターつなぐ（藤岡・盛岡・野田）、緑地公園メディカルクリニック（吉岡）		
	あいわ診療所長（伊藤）在宅サービスセンター長（巽）、ケアプランセンターあいわ（科長土本・金山）		
	豊中市役所長寿社会政策課（澤田・山中）、ウエルケアプランセンター（森井）緑地地域包括		
	支援センター（村上・寛山・稲吉）ケアハウスはなみすき（施設長・長尾・藤井）		
	司法書士（村井）、D&W新大阪（佐々木・成田・坂本）、ケアプランセンター豊中南（茶谷・白川）		

1.参加者紹介

2.2025年度下半期実績報告

●2025年度下半期と2024年度下半期の訪問件数の比較

2025年度は介護看護共に件数が伸び介護月平均588件昨年度比166%。看護月平均33件昨年度比175%となった。

●看護ありと看護なしの件数

看護ありは毎月10件以上となった。看護が必要とされていることが顕著な結果となった。

内容では薬管理が多く9件、創部の処置が1件、便コントロールが1件、入浴介助が1件

介護は月平均41件昨年度比145.5%となり、看護の訪問件数の増加が顕著となった。

●地区別利用者分布

上半期と同様に、寺内が最も多く7件、次いで庄内が2件、後は1件ずつとなった。

●随時訪問と内容

10月は今期最高件数の17件。

●随時訪問件数と内容

介護32件看護1件合わせて33回の訪問があった。

全体を通して排便に関することが最も多く20件、転倒、座り込みが6件となった。

看護は発熱、嘔吐で1月に訪問があった。排便に関して、担当者会議を開催、医療で

関わっていただいていた看護事業所にも協力をお願いし、利用者の理解も得て夜間帯の

随時訪問回数をコントロールすることができた。

3.事故報告

1 Y氏、92歳、ほぼ寝たきりの要介護3の方

ベッド上でのオムツ交換後、ベッドから車いすへ移乗後に食事をしていただく。

ベッドから車いすに移乗をする際、利用者の足にヘルパーの足が当たってしまった。「痛い」と言われたので動きを止めるとひざ折れし臀部が下がってしまった。床に座らせたため引き上げようとするが一人では難しくステーションに連絡が入る。 応援職員が到着し、二人で介助し車いすに移乗。足に痛みは無く、移乗後に通常通りのサービスを行なった。 スタッフ要因として、正しい位置での介助ができていなかった。 対策として移乗の際は利用者の動きを確認し、移動の妨げにならない位置で介助する。 利用者への声掛けを徹底し、利用者にも協力してもらう。介助方法について事前に指導を行うとともに、状態が変わった場合は同行を行い介助方法の確認を行う。	
4.事例報告	パワーポイント資料参照
5. 地域活動	バッピークラブ
	10/19「あいわの集い」 11/14キッズ認サポ
	6/25・10/19・3/3：地域研修会
6. 今後の課題	①医療的なニーズの高い利用者は、定期巡回での看護の対応が難しく、受け入れが困難だと感じる。 ②あいわでは、訪問介護、総合事業、障がいサービスや豊中市からの委託事業「子育て世帯訪問支援事業等」を行っています。そのため、定期巡回での1日複数回訪問のある利用者が重なり職員への負担も大きくなり受け入れが難しくなる。介護度の低い利用者の利用も積極的に推進して利用者に必要であっても定期巡回サービスに移行することが難しい。
参加者からのご意見・質問と返答	
あいわ診療所長：伊藤	
●今年度は定期巡回の件数が増加した。定期巡回開設当初は件数が伸び悩み事業として継続の必要性を考えることがあったが皆さんのご協力や事業所としての努力のおかげもあり現在の件数にまで伸びた。どういう利用者が定期巡回の対象になるかということについては問題になるかと思うが、いろいろなパターンに対応できることが強みだと思うので、こういう人ではないといけないといった感覚は必要ないと感じる。事例の方はご自身でできることが多いので見守り（安否確認）が中心になるという状況	

であるが、そのような方も対象と成りうる。以前は介護度が高く、緊急時の対応が必要な方をイメージしていたが事例のような方も対象となることがわかった。定期巡回での訪問が入ることでご利用者が安心して明るく生活できているということは定期巡回の良い効果が出たことかと思う。今後も法人として定期巡回を推進していきたいと考えているので相談し検討を重ねていただければよいと考える。
ウエルケアプランセンター：森井様
●事例1の方のサービスについて、1日に2回（朝夕）の食事の提供ということだが、昼食に関してはどうされているのでしょうか。
A.ガスを使いうどんは作れるので、うどんだしうどんの袋麺の購入や、カップ麺やパンなどを購入して空腹時に食べられるように準備している。
D&W新大阪：成田様
●大阪市内では定期巡回のサービスを利用しているが、豊中市での定期巡回のサービスはどうなっているのか知りたくて参加させてもらった。事例では介護度が低かったが、介護度が4や5で一日に複数回はいる必要がある方の受入はされるのか？
A・現在でも介護4,5のご利用者で1日複数回サービスを行っているケースはある。その方の状態にあわせてサービス内容は検討させていただいている。ただ、あいわが通常の訪問介護や他の事業もやっているため、1日複数回のサービスが必要な方をたくさん受けることは全体のバランスを感が得ると困難である。その時の状況でお受けできるかどうか判断させてもらうことになる。
●夜間帯、例えば夜の0時の訪問などは受けてもらえるのか。
A.現状、朝は7：30～、夜の最終訪問は19：30で終了するサービスを行っている。
先程の回答と同じように定期巡回以外のサービスを行っているため、現状は定期で深夜に訪問するサービスの対応は難しいと考えている。緊急コールや一時的な訪問であれば対応可能である。
地域包括支援センター：稲吉
●定期巡回のサービスを受けるにあたり、どういう状況になれば利用となるのか明確な基準はあるのか。
A.明確な基準はない。定期巡回が訪問介護と違う特色は緊急時のオンコール体制や随時訪問がある。自宅で転倒した、体調が悪くなった等家族等の対応が難しい方などが緊急時の対応として安心して在宅生活を送るために利用されることもある。また、1日複数回のサービスが必要なために利用されるケースや毎日服薬介助が必要な方等にも利用していただけている。
豊中市長寿社会政策課：山中様
●会議の中で今後の課題をあげていたが他に課題となることはあるでしょうか。
A.定期巡回のサービスを受けるにあたり、看護のニーズが高いが看護がサービスに入る頻度が高い場合は、事業所として受入が難しくなる。ご利用者やケアマネジャーのニーズはあるがその対応出来ないで、今後どのようにしていけばよいかが課題だと考える。

緑地公園メディカルクリニック：吉岡様
●事例を通してサービスの組み立て方が理解できた。二例目の方がデイ利用中にしごりがみつかり、そこから医療に繋がったと思う。普段医療の現場にいるので医療と介護の連携が難しかったりや患者さん自身を見るのではなく病気という点で見えてしまうが利用者さんの背景も含めその人自身をちゃんと知ろうとする姿勢が大事だと感じた。この機会を通して今の社会背景や地域の問題に関わるということはとても勉強になった。
ケアハウスはなみずき施設長：長尾
●ケアハウスはなみずきは軽費老人ホームで自立型となっているが、現在20名中12名の方が要介護状態となっている。そういった中で、以前は日常生活が心配になってきた段階で別の行き先を相談させてもらう必要もあつたが定期巡回のサービスを利用することで、できるだけ限界までケアハウスでの生活を確保することができている。
要介護状態になった際に緩やかにレベルダウンしていく方、急激に落ちていく方がいるが安否確認から介護まで幅広いサービスを使っていたらという中で様々なサービスを期待しているところがある。
ヘルパーと相談し通常の訪問介護がよいのか定期巡回の方がよいのか相談しながら進めていくことがよいと実感している。
利用者が必要とするサービスを適切に組み立て、無理なくサービスを継続して提供していくことが重要だと考える。単位数の調整など制度面に悩むこともあるが、まず利用者のために最適なサービスを考える姿勢が大切でそこから単位数の調整をしていく。そのうえで、ケアハウスでも制度を上手に活用しながら、利用者に長くサービスを使ってもらえるよう、今後も一緒に取り組んでいきたい。
司法書士：村井様
●来年度、後見人制度が大きく変更になる。国の方針として本人の意思を尊重しオーダーメイド形式のサポートが必要になる。また、後見人の権限の範囲が非常に狭まるという動きになってきている。そのため今後、定期巡回のようなサービスを利用する機会が非常に増えてくると考える。ただ、利用者のニーズは高くそれに対応するマンパワーが不足していることは本当に課題であると考えている。
在宅サービスセンター長：巽
●定期巡回は法人のなかでも豊中でしか行っていない事業である。サービスを利用するうえで便利な面もあるが、運営する側としては難しく感じることもある。夜間帯の訪問へ行くと日中帯のサービスが手薄になるという状況がある。また、看護介護一体型でのサービスであるが、看護の比重が大きくなると、通常の訪問看護に影響し対応が難しいとジレンマを抱えている。ニーズがあるのは間違いないので、どう行っていくか検討が必要なところである。
制度自体が複雑なため、必要に応じて事業所を訪問し、定期巡回について直接説明する機会を設けたいと考えている。